

池田いいとこ新聞

足王社



昔は、みんな歩いてたびをしていました。くつはなく、わらで作った「わらじ」というぞうりをはいていました。九十センチほどのせまい道はデコボコしています。足がいたいので、たびびとの休けい場として、また、足が強くなるようにと、今からやく百年前に地元、見延地区の人々によってまつられた社です。今でも「わらじ」がぶらさげてあります。また、社のちかくには「わらじや」という屋号がのこるおたくがありますよ。

ごうけい



「ごうけい」とは、大きくて力づよくすばらしいけしきのことです。大きくて天にもとどくような岩と、槇谷川のきれいな水の音が聞こえることから、大正十二年に「国指定名勝地(くにしていめいしようち)」になりました。

正満寺



正満寺は、やく八八〇年ほど昔、岡山県で生まれたよいうさいというおぼろさんが始めた「臨済宗(りんざいしゆう)」という教えです。約三百五十年ぐらい昔から粟地区にあるお寺です。本山は「一番もとになるお寺のこと」です。

わたしは、正満寺でせいを正しくして、おれいをした後、ようかんをたべさしてくれたり、まっ茶をのませてくださったりして、とてもうれしかったです。ぎぜんもとても長かったのでびっくりしました。次行くときは、家旅みんなで行ってみたいです。